



# The Effects of the Great East Japan Earthquake and the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident on Behavioural and Psychological Symptoms of Dementia among Patients

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2022-05-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮川, 明美 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://fmu.repo.nii.ac.jp/records/2000399">https://fmu.repo.nii.ac.jp/records/2000399</a>

<p>しめい 氏名</p>	<p>みやがわ あけみ 宮川 明美</p>
<p>学位論文題名</p>	<p>The Effects of the Great East Japan Earthquake and the Evacuation from Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident on Behavioural and Psychological Symptoms of Dementia among Patients (東日本大震災ならびに福島第一原子力発電所事故からの避難が認知症患者の行動心理症状に与えた影響)</p>
<p><b>背景:</b> 東日本大震災とそれに引き続いて起こった福島第一原子力発電所事故は、人類史上初めての自然災害と原子力災害の双方を含む複合災害となった。本研究は、この複合災害が認知症患者の受診動向と臨床症状に与えた影響を明らかにすることを目的とした。</p> <p><b>方法:</b> 対象は、2008年1月から2010年12月、及び2012年1月から2015年12月の間に、南相馬市の雲雀ヶ丘病院を新規に受診した患者2482名のうち、認知症と診断された331名とした。診療録を後方視的に、新規認知症患者数、性別、年齢、認知症の種類、重症度、主訴、行動心理症状(Behavioural and Psychological Symptoms of Dementia, BPSD)、同居家族構成について調査した。BPSDは、過活動性BPSD群と低活動性BPSD群に分類した。過活動性BPSD群は、さらに、主に興奮などを示すHyperactivity-Impulsivity-Irritability-Disinhibition-Aggression-Agitation (HIDA)群と、幻覚や妄想を示すpsychosis群に分類した。低活動性BPSD群は、抑うつ、不活発、アパシー、不安を示す群とした。これらの項目について、複合災害前(2008-2010年)と複合災害後(2012-2015年)で比較した。複合災害後はさらに複合災害後早期(2012-2013年)と、複合災害後後期(2014-2015年)に分類し、複合災害前と比較した。</p> <p><b>結果:</b> 新規受診患者のうち認知症患者が占める割合は、複合災害前後で有意に増加しており(<math>p &lt; 0.001</math>)、複合災害後早期と後期の比較でも、後期に有意な増加を認めた(<math>p = 0.023</math>)。患者の性別、年齢、認知症の種類、重症度、同居家族構成は、複合災害前後で変化していなかったが、BPSDを主訴とする受診は複合災害後に有意に増加した(<math>p &lt; 0.001</math>)。またBPSDは、複合災害前と複合災害後全体の比較ではpsychosis群が有意に増加していたが(<math>p = 0.034</math>)、複合災害後を早期と後期に分けて検討したところ、早期はHIDA群が(<math>p = 0.013</math>)、後期はpsychosis群が有意に増加していた(<math>p = 0.018</math>)。</p> <p><b>考察:</b> 複合災害後にBPSDを有する認知症患者の受診が増加していたが、複合災害後の時間的経過に応じてBPSDの特徴が異なっていた。避難や介護環境の変化に伴う心理的ストレスの影響は、短期的には興奮性のBPSDの増加に、長期的には精神病性のBPSDの増加に反映されている可能性が考えられた。</p>	

# 学位論文審査結果報告書

令和4年2月18日

大学院医学研究科長 様

下記のとおり学位論文の審査を終了したので報告いたします。

## 記

学位申請者氏名 宮川明美

学位論文題名 The Effects of the Great East Japan Earthquake and the Evacuation from Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident on Behavioural and Psychological Symptoms of Dementia among Patients

(東日本大震災ならびに第一原子力発電所事故からの避難が認知症患者の行動心理症状に与えた影響)

## 審査結果要旨

本研究は、東日本大震災とそれに引き続いて起こった福島第一原子力発電所事故という複合災害が認知症患者の受診動向と臨床症状に与えた影響を明らかにすることが目的である。2008年1月から2010年12月、及び2012年1月から2015年12月の間に、南相馬市の精神科病院を新規に受診した患者2482名のうち、認知症と診断された331名が対象である。診療録を後方視的に、新規認知症患者数、性別、年齢、認知症の種類、重症度、主訴、行動心理症状 (Behavioural and Psychological Symptoms of Dementia, BPSD)、同居家族構成について調査した。これらの項目について、災害前後、及び災害後早期 (2012-2013年) と、災害後後期 (2014-2015年) に分類し、比較した。その結果、新規受診患者のうち認知症患者が占める割合は、災害前後で有意に増加し、災害後早期と後期の比較でも、後期に有意な増加を認めた。患者の背景要因の変化はなかったが、BPSDを主訴とする受診は災害後に有意に増加した。またBPSDは、災害後にはpsychosis群が有意に増加していたが、災害後を早期と後期に分けた検討では、早期はHIDA群が、後期はpsychosis群が有意に増加していた。

申請者はこの結果について、災害後に避難や介護環境の変化に伴う心理的ストレスの影響は、短期的には興奮性のBPSDの増加に、長期的には精神病性のBPSDの増加に反映されている可能性に言及している。放射能汚染を含む複合災害を経験した地域の認知症患者において認められる、価値ある知見を提供した点で極めて高く評価される。

審査会での主査、副査からのコメントに対しても、適切な回答、及び、論文本体での修正がなされ、極めて質の高い論文になったと考える。

以上のことから、本論文は学位授与にふさわしいと判断する。

論文審査委員 主査 安村誠司  
副査 岩佐 一  
副査 三浦 至